

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 24 年 12 月 20 日 (2012.12.20)

【公表番号】特表 2012-525320 (P2012-525320A)

【公表日】平成 24 年 10 月 22 日 (2012.10.22)

【年通号数】公開・登録公報 2012-043

【出願番号】特願 2012-508624 (P2012-508624)

【国際特許分類】

C 0 1 B 39/24 (2006.01)

B 0 1 J 20/18 (2006.01)

B 0 1 J 20/30 (2006.01)

C 1 0 G 25/03 (2006.01)

B 0 1 J 37/10 (2006.01)

B 0 1 J 29/08 (2006.01)

【 F I 】

C 0 1 B 39/24

B 0 1 J 20/18 A

B 0 1 J 20/30

C 1 0 G 25/03

B 0 1 J 37/10

B 0 1 J 29/08 M

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 11 月 5 日 (2012.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アルミナに対するシリカのモル比として少なくとも 10 のモル比を有するゼオライト Y を 700 から 1000 までの温度での焼成にさらすステップを含む変性ゼオライト Y を調製するための方法であって、(i) 水蒸気分圧が 700 から 800 までの温度で最大で 0.06 パール (6000 Pa) であり、(ii) 水蒸気分圧が 800 から 850 までの温度で最大で 0.08 パール (8000 Pa) であり、(iii) 水蒸気分圧が 850 から 900 までの温度で少なくとも 0.03 パール (3000 Pa) であり、(iv) 水蒸気分圧が 900 から 950 までの温度で少なくとも 0.05 パール (5000 Pa) であり、(v) 水蒸気分圧が 950 から 1000 までの温度で少なくとも 0.07 パール (7000 Pa) である上記方法。

【請求項 2】

ゼオライト Y が、アルミナに対するシリカのモル比として 10 を超えるモル比を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

焼成が、20 分から 5 時間までの時間にわたって行われる、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

焼成前のゼオライト Y が、アルミナに対するシリカのモル比として 13 より大きいモル比、24.10 から 24.40 までの範囲の単位セルの大きさ、及び少なくとも 875 m² / g の表面積を有する、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 までのいずれか一項に記載の方法によって得ることができるゼオライト Y。

【請求項 6】

アルミナに対するシリカのモル比として少なくとも 10 のモル比を有するゼオライト Y であって、その赤外線スペクトルが、 3700 cm^{-1} にピークを有するが、 3670 cm^{-1} には実質的にピークがない上記ゼオライト Y。

【請求項 7】

アルミナに対するシリカのモル比として少なくとも 10 のモル比を有するゼオライト Y であって、過重水素化ベンゼンとの交換により測定したときに、最大で 20 マイクロモル / グラムの酸性度を有する上記ゼオライト Y。

【請求項 8】

過重水素化ベンゼンとの交換により測定したときに、最大で 10 マイクロモル / グラムの酸性度を有する、請求項 7 に記載のゼオライト Y。

【請求項 9】

ゼオライトを使用する方法であって、請求項 1 から 7 までのいずれか一項に記載の変性ゼオライト Y を吸着剤として使用する上記方法。